2014 年度（春ｽﾀｰﾄ・１ 年）
Mount Allison University

M.C.　社会システム学科・３年次

I. 留学レポート

①　協定留学を目指した理由

高校生の時からカナダへ留学することが夢で、大学生になったら絶対に留学すると決めていました。カナダを希望した理由は、とても単純なことです。カレンダーなどでよく使われるカナダの大自然の写真を見て、実際にそこへ行きたいと思ったからです。
しかしそれまで海外での長期滞在といえば、高校の修学旅行でオーストラリアに１週間行ったことだけでした。だから大学１回生の時、同志社女子大学の海外研修プログラムに参加させたいただき、約２週間アメリカに行きました。留学前に少しでも海外に慣れておこうと思っていたからです。ボストンから始まり、最後はニューヨークで終わりました。田舎から大都会まで様々な場所を巡り、様々な人に出会いました。それと同時に、自分の英語力のなさも痛感しました。
このときから、絶対長期留学して英語力を伸ばす！と決めました。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

アメリカへの短期海外研修に参加してから、長期留学への夢はいつも自分の中にありました。でも実際は、留学に必要な TOEFL や大学調べなどになかなか手を付けませんでした。まだ時間はある、そう思っていたからです。大間違いでした。正直、出願の６ヶ月前くらいから、TOEFL を受け始めたり希望大学について調べたりしました。１度だけ、必要なスコアを取ることができました。
この短期間でなんとか獲得したスコアは､資格講座の TOEFL 講座のおかげだと思います。４月から夏休みにかけて全１３回あり、１回２～４限という時間を使って講習がありました。単語テストや宿題の量は多かったですが、とても役に立ったと思います。また、CASE プログラムも取っていたので､reading, writing, speaking, listening の４つの skill をネイティブの先生から教わっていました。これは、社会システム学科がもつ、英語特別プログラムです。特に、writing のクラスで学んだことは留学した時にとても助かりました。

③　留学決定から出発までの準備期間

１１月上旬頃、留学が決定しました。決定後は留学に必要な書類をたくさん提出しないといけないのと期末テストがあり、とてもバタバタしていました。だから、英語の勉強は授業で触れるくらいでほとんどできませんでした。
ビザは自分でとりました。先輩に、ビザ申請が受理されるのに１ヶ月はかかると言われていたので、出発の２ヶ月前からビザに必要な書類を集め始めました。自分ですると言っても、ビザ申請に関しては全くの無知だったので、インターネットでやり方を調べたり、留学をサポートしてくれる会社に何度も電話やメールをして質問したりしました。ここで気を付けてほしいことが１つあります。それは、各銀行にもよりますが、口座残高証明書を銀行が発行するのに５日ほどはかかるということです。私はこのことを知らなかったため、

母を何度も銀行へ走らせてしまい、申し訳ない思いをしました。申請に必要な書類は、本当に早め早めの準備をしてください。業者に頼んでビザを取得する方が明らかに簡単だと思います。結局、私は取得するのに３週間かかりました。ですが、自分でビザを取ることも留学の一部分だと思います。大変だったけど、申請完了のメールがきたときの安心感と達成感は今でも覚えています。

春休みは、出発までできるだけ友達と会ったり、旅行をしたりしました。アルバイトも出発の２週間前くらいまでしていました。なので、パッキングもぎりぎりで・・・。バンクーバーに、祖父の知り合いが住んでいるので、その方に現地での気温などを聞き、ほとんど冬服を持って行きました。夏服は向こうで買ったり、日本からたくさん送ってもらったりしました。

④　現地到着後

バンクーバー空港に到着後、まずは空港内にある移民局へ。ここへは早めに行った方がいいです。１人に対してとても時間がかかり、待ち列がすごいことになります。到着口で、送迎してくれる方が私の名前を書いた紙を持って待っていました。６人ほど他の生徒さんもいて、さらには送迎会社に少しトラブルがあったこともあり、到着してから３～４時間ほど待ちました。雨や渋滞ということもあり、空港からホームステイ先までは４５分くらいかかったと思います。金曜日の夕方に着きました。月曜日から学校が始まるので、次の日の土曜日にホストマザーが語学学校とエージェントに連れて行ってくれました。ステイ先からダウンタウンまで、バスとスカイトレインを使って３０分ほどです。元々、道を覚えるのは得意な方ですが、ダウンダウンに着いた時は学校初日にちゃんと１人で行けるか、とても不安になりました。

語学学校１日目は、迷うこともなく時間に余裕をもって行くことができました。日本と比べて、道がわかりやすかったです。その日はレベル分けテストを受け、学校のことやバンクーバーで暮らす注意点などを聞きました。その後、エージェントのオリエンテーションを受けました。バンクーバーの地図をいただき、それを使って、おすすめのお店や携帯ショップ、また危険な場所などを教えてくれました。

日本から持ってきたiPhoneは機内モードのままでWi-Fiを使ってインターネットを使っていました。そして、ホストファミリーや友達とすぐ連絡が取れるようにカナダでも携帯を買いました。家やカフェなどには Wi-Fi があるのでいいのですが、駅や街中にはありません。そんな中で、カナダで買った携帯は電話やSMSが使えるので便利でした。

バスとスカイトレインは同じ会社なので、切符や定期券も一定の時間内であれば何度でも使えます。１ヶ月定期券は毎月末の５日間だけ、セブンイレブンなどのコンビニで購入できました。住む場所によって値段は異なりますが、私の場合、毎月＄190 ほどかかりました。

⑤　語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

語学学校はバンクーバーのダウンタウンにありました。ビルの中の３階に位置し、同じ

ビルの２階にある日本食バイキングのレストランは、いつも行列ができていました。学校は駅からも近く、周りにはカフェやレストランがたくさんあります。すぐ近くのストリートはショッピング街で有名でした。教室は２０人くらい入れる大きさで、パソコン室は２つありました。休憩時間やお昼ご飯はラウンジで過ごしました。冷蔵庫、電子レンジや食器を洗えるシンクもあります。

放課後はよく、友達と夜ご飯を食べに行ったり、カフェでお茶をしたりしました。カナダは移民の国なので、日本はもちろん、韓国・中国・ブラジル・ギリシャなど、様々な国のレストランがありました。どのお店もとてもおいしかったです。ダウンタウンの隣に大きな公園とビーチがあります。週末には友達とサイクリングをしたり、サンセットを見に行ったり。English Bay というビーチは、バンクーバーの中で一番好きな場所でした。

◆授業内容、課題、試験

語学学校では２つのコースを受けていました。まず、約１ヶ月の Intensive English 。これは、英語の４つのセクション（reading, writing, speaking, listening）を簡単なディスカッションやゲームで学びました。私のクラスは他クラスと比べておもしろいルールがありました。それは、遅刻した人が次の日にお菓子を持ってくること。それでも遅刻する人はいるので、毎日みんなでお菓子を食べながら授業をしていました。遅刻する人はだいたい決まっていて、いつもみんなで笑っていました。

後半は、University Foundation Certificate です。簡単に言えば大学準備コースです。ここで、大学の授業についていくための様々なスキルを学びました。Reading/writing のクラスでは、速読の練習とエッセイを書く練習をしました。１冊の小説をみんなで音読したり、エッセイは先生から与えられたテーマの中から１つ選び、１０００字ほど書いたりしました。Speaking/listening のクラスでは、プレゼンテーションとレクチャーを聞きながらメモを取る練習をしました。プレゼンテーションは週１回行います。PPT を使うだけではなく、１０分間喋り続けるスピーチもありました。プレゼンテーションは毎回緊張しました。ノートを取る練習はなかなか上手くいきませんでした。でも、このスキルが大学生活で１番大事なことなので、めげずに頑張りました。UFC には中間・最終テストの２回ありました。このコースに合格しなければ、マウントアリソン大学には行けないと知っていたので、授業もテストも必死でした。

前半の Intensive English に比べ、後半の UFC コースの宿題はかなり時間がかかるものでした。それに UFC が始まると、他の友達の時間割とは異なり、変な時間割になったので、前のクラスメイトと会う機会が格段に減ったのが少し悲しかったです。ですが、UFC のメンバーは私を含め５人だけで、みんな女の子。すぐに仲良くなりました。UFC の授業や宿題の難しさを知っているのはこのクラスメイトだけ。みんなで励まし合いながら、余裕があれば５人でカフェやレストランに行って息抜きをしました。

⑥　正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

マウントアリソン大学のあるサックビルは田舎だと聞いていましたが、予想以上の田舎町でした。大都市のバンクーバーから来た私は、かなり驚きました。大学周辺には、スーパーや薬局などの必要最低限なもの。ダウンタウンは一応ありますが、とてもとても小さく、銀行・レストラン・カフェなどを合わせても１０個ほど。キャンパスから徒歩で１０分ほどの所にファストフードの店が３つくらいあります。

サックビルから高速バスで１時間ほどの所に、モンクトンという町があります。大きなショッピングモールが１つとレストランがたくさんあります。バスは往復で＄２５かかるので、私は在学中２回だけ行きました。

サックビルには必要最低限なもの以外は特になにもなかったので、勉強一本に集中しました。たまにジムに行ったり、散歩したりしてストレスを発散しました。

◆履修科目

５科目までとれますが、私は確実に単位を取りたかったので３科目だけにしました。今回は不運なことに、授業登録をするための student ID とパスワードを配られるのが他の生徒より遅かったため、取りたい授業が満員ということが何回かありました。

・POLS-1001-A　Foundations of Politics

政治学の基礎を学びます。高校で勉強した政経を英語で勉強し直した、という感じです。最後の方には国際関係についても触れていました。

・GENV-1201-A　Human and Environment

地理学です。名前の通り、人間とあらゆる環境の関係について学びます。人口と移民、文化的景観、ローカルとグローバル、田舎と都会、テクノロジー。これらには全て人間が関わり、人間によって環境も変わっていくということを学びます。

・CANA-2011-A　An Intro to Canadian Culture

カナダの文化について様々な視点から学びます。カナダの絵画や音楽。アボリジニーの文化。多国籍文化。これらを政治的・社会的側面からみていきます。

◆授業、レポート、定期試験

ほとんどのカナダ人の生徒は、ノートを取るのにパソコンを使っていました。私は書かないと頭に入らないので、ノートでメモを取っていました。また、英語が第１言語ではない留学生は、教授に申請すれば辞書や extra time を許可してもらえます。私は政治学だけ教授にお願いしました。

・POLS-1001-A　Foundations of Politics

週２回のレクチャーと、２週間に１回のチュートリアルというゼミのようなもので構成されています。最初は、専門用語がわからず、満員の教室に圧倒されて授業に慣れるのに必死でした。授業は PPT を使い、教科書の chapter ごとに進んでいきます。レジュメに大体のスケジュールが載っていたので、それに合わせて教科書を読んで予習しました。中間テストが３回と期末テストがあり、全て選択問題。テスト範囲の PPT と教科書を読んでおけ

ば、点数は取れます。期末の前に、６～８ページ分の paper を提出しました。７つのテーマから１つを選びます。私は「UN などの国際機関が国内問題に介入することができる権利を持つべきか」を選び、中国人の友達とペアで作成しました。もちろん、１人で作成している生徒もいました。

・GENV-1201-A　Human and Environment

週３回のレクチャー形式です。PPT やビデオを使っていました。大学周辺を散策し、「景色を読む」という授業もありました。テーマは８回分あり、各テーマについて writing の課題がでます。課題が出るたびに、授業内容のまとめと５つほどの質問が書かれた紙を配ってくれます。それを読みながら、各質問に short essay の形で答える感じです。中間と期末テストがあり、どちらも記述問題です。中間テストは、６つの中から４つ問題を選び、各々を short essay で答えます。期末テストの大問１は、中間テストのように複数の中から４つ選び short essay。大問２は、６つの中から３つ選び、essay という形です。教授の話し方はわかりやすく、とても優しい方でした。

・CANA-2011-A　An Intro to Canadian Culture

週２回あり、レクチャーとチュートリアルです。２回生レベルの授業です。毎週テーマが決まっていて、それに関連する reading を読み、それを３５０～５００字でまとめた paper をチュートリアルで提出。この課題を毎週行います。なるべくその週の reading はレクチャー前に予習として読んでおき、レクチャー後に reading と授業の内容を paper でまとめる。このスタイルを続ける努力をしました。これも、中間と期末テストがあり、記述問題です。中間テストは、２５個の単語の中から１５個を選び、それぞれの内容と文化的特徴を答えます。期末テストの大問１は、中間テストのように１０個の単語から６個を選び、内容と文化的特徴を。大問２では、４つの質問から２つ選び、essay を書きました。チュートリアルでは、毎週テーマごとにプレゼンがあり、そのテーマについてディスカッションをしました。１人１回、グループプレゼンをします。私は Quebec culture と Canadian culture の違いについてプレゼンしました。writing と reading の課題がかなり多く、３つの中では１番大変な授業でしたが、とてもおもしろかったです。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

バンクーバーにいたとき、BMO マラソンという年に１度の大きなマラソン大会のボランティアに参加しました。バンクーバーのエージェントから来たメールを見て、エージェントのオリエンテーションで知り合った友達と一緒に応募しました。ボランティアの場所は、University of British Colombia に設置された給水所です。この日は雨で寒かったです。そんな中、たくさんのランナーに水が入ったコップを渡しながら、”Good job!” “You guys are awesome!”など、ボランティアメンバー全員で応援しました。ゼッケン番号の上に名前があるランナーには、なるべくその人の名前を叫びながら応援しました。給水所にいる間、ランナーのみなさんからたくさんの”Thank you!”という言葉をもら

いました。正直、雨は降るしコップの水はかかるし、手が凍りそうなほど寒かったです。しかし、それ以上にランナーのみなさんがくれた言葉１つ１つがとっても嬉しかったです。このボランティアに参加してよかったなと思いました。

大学にいる間は、勉強で精一杯だったのと、特に興味のあるクラブがなかったので、何にも入りませんでした。留学生用に Mentorship Program というものがあったので、参加しました。大学側が各留学生に上級生を１人紹介してくれる制度です。このプログラムで、Prince Edward Island での１日観光やハロウィンパーティーなどのイベントを楽しみました。

⑧　現地での住まい

バンクーバーにいたときは、ホームステイをしました。ホストファミリーはフィリピン系の３人家族でした。彼らにとっては私が５人目の日本人生徒だったそうです。なので、日本食をよく作ってくれました。釜飯を作ってくれた時はびっくりしました。さらに、キッコーマンの醤油も常備してありました。朝ご飯はシリアルやパン。お昼はマザーがお弁当を作ってくれました。夜ご飯はフィリピン料理やうどん。米は毎日炊いてくれて、おかずと一緒によく食べていました。フィリピン料理のようなエスニック料理には少し抵抗がありましたが、とりあえず毎回チャレンジしました。食べてみて、おいしい！と思ったものがほとんどで。おいしくないなぁ・・・と思ったものは、私の好みではなかったと伝えました。ホストファミリーには、遠慮せずに自分の意見をはっきり言えました。だんだん生活に慣れてくると、友達と外食する回数が増え、あまりステイ　先で夜ご飯を食べることがなくなりました。

よく留学生を受け入れているからか、私の部屋の壁には House Rule の紙が貼ってありました。特に厳しいことは書いてありません。洗濯は週１回、夜ご飯がいらないときは早めに連絡、ベッドメイキングをする、といった感じです。とにかく基本は自由です。シャワーの時間も特に何も言われませんでした。

大学では、Windsor という１番大きな寮に住んでいました。ミールホールの横にあるのはよかったのですが、それ以上にうるさすぎました。パーティー寮と言われているだけあって、毎週末は音楽を爆音で流し、お酒を大量に飲みながらパーティーです。なぜかわからないのですが、毎年４階が１番うるさいそうで・・・。その４階に私は住んでいました。なので、毎週末は、違う寮に住む友達の部屋に逃げ込んでいました。平日はめちゃくちゃ勉強して、週末はお酒やパーティーでストレスを発散。これがカナディアンの学生生活です。メリハリがあるのはいいことだと思いますが、私には合わせることが難しかったです。

寮の申し込みをする時も student ID が必要です。さっき授業登録のところでも言った通り、ID を配布されるのが遅くて、申し込みが他の生徒よりも遅れました。第３希望まで書きましたが、結局希望の寮になりませんでした。申し込む前に、大学の HP で各寮の特徴を調べといた方がいいと思います。

⑨　長期休暇の過ごし方

語学学校の卒業日からマウントアリソン大学の入寮日まで、３週間以上ありました。ホームステイ申し込みの時からすでに１週間は延長していたのですが、バンクーバーでさらに１週間ステイを延長しました。語学学校も終わったのに、２週間もバンクーバーで何をしたらいいんだろう・・・。その時はそう思っていましたが、結果的にこの２週間は私にとってとても大切な時間になりました。UFC コースの友達とアメリカのシアトルへ１泊旅行。語学学校の友達とディナー。私の大好きなビーチに行き、今までの思い出をたくさん話し合って。パッキングをして。出発前日には、ホストファミリーと日本食レストランへ。最後の最後まで、バンクーバーを楽しみました。

その後、トロントへ１人旅。１日目、トロントの語学学校に行っていた同女の子がいろんな観光名所に連れて行ってくれました。それ以降は、美術館や博物館。カサロマというお城に行きました。バンクーバーの語学学校でとてもお世話になった先生がトロントに引っ越したのを覚えていたので、この機会に一緒に食事に行きました。最終日にはナイアガラのツアーに参加しました。

トロントから、さらに東にあるハリファックスへ行きました。空港で同女の子２人と合流し、２泊滞在しました。次に、ハリファックスからバスでプリンスエドワード島に行き、２泊しました。赤毛のアンの舞台へ行けたことにとても感動しました。

MTA の期末テストが終わった後には、同女の子と２人でニューヨークへ。４泊しました。クリスマスシーズンということもあり、イルミネーションやクリスマスツリーがたくさん。街中がとてもキラキラしていました。ブロードウェイミュージカルを２回見たり、ショッピングをしたり。とにかく最後は思いっきり楽しみました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

私の代から就活のスタート時期が１２月から４月にずれたこともあり、特に何もしていませんでした。正直、大学の授業や課題についていくのに必死で、就活のことを考えられる余裕がありませんでした。

Ⅱ．留学の感想

①留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは…ほんとにたくさんあります！！語学学校で出会ったいろんな国の友達と、いろんなことをしました。バンクーバーは本当に素敵な都市で。都会もあり自然もあり、楽しいことがいっぱいです。様々な国のレストランに行き、韓国料理屋さんにはしょっちゅう行きました。公園でのサイクリングは本当に気持ちよかったです。公園では桜が見られるんですよ！Deep Cove でハイキング、ビーチでフリスビー、カラフルな粉まみれになるマラソン、映画、パーティー、旅行。大親友の韓国人２人とは、本当によく遊びました。３人でビクトリアへ１泊２日の旅行をしたときは、本当に楽しくて。今までで最高の旅だね！って３人でよく言っていました。

１番思い出に残っていることは、ロッキー山脈への３泊４日のツアーです。私は、ロッキーをずっと前から見たくて。だから、語学学校をバンクーバーに決めました。初めてロッキーを目の前にしたとき、自然の壮大さに感動して声がでませんでした。エメラルドブルーの湖。真っ白な氷河。私が見たかったほとんどの景色を見ることができました。

②　留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

バンクーバーについて初めの１週間、予想以上に英語がわからないし話せないしで、一気に弱気になりました。英語にはある程度自信があると思っていましたが、大間違いでした。クラス内でのディスカッションでなかなか会話が続きませんでした。クラスメイトに声をかけることもできませんでした。友達ができないと、ホストに相談しました。１週目の最後の日に先生から、レベルを下げてみたら？と提案され、２週目から新しいクラスへ。そこで出会ったクラスメイトと先生が、私の生活を１８０度変えてくれました。すぐに友達もでき、少しずつ英語を話す機会が増え、１ヶ月後には元のレベルに戻って授業についていけるようにまでなっていました。

大学は大学で、授業が大変でした。特にノートを取ること、paper や reading の多さです。毎週、課題と reading に追われる日々でした。平日は夜中まで勉強していました。最初の１ヶ月は、どうやって各教科に手を付けていけばいいかわかりませんでした。慣れるまで、試行錯誤の毎日です。ディスカッションの中でカナダ人の子が何を言っているかわからず、聞いているので必死でした。語学学校と違い、生徒のほとんどはネイティブスピーカー。話すスピードが速すぎました。この時すでに４ヶ月以上はカナダにいるのに、自分の listening skill に変化がないなぁ、とかなり落ち込みました。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

やっぱりスキンシップですね。挨拶で握手、ハグは当たり前の世界でした。最初、初対面の男の子にハグされたときは正直びっくりしました。でも、カナダに慣れていくにつれて、このスキンシップがとても素敵なことだと気付きました。ただ友達と遊ぶということだけでも、会った時と別れる時にハグをしていました。何気ないことですけど、ハグって本当に心があったかくなります。日本ではあまりそういうことはしませんよね。私自身も、日本でそのような光景はあまり見たことがありません。ですが、こっちでは老若男女みんながしています。よく会う人、久しぶりに会う人なんて関係ありません。挨拶の一部として、彼らはハグという形で表現します。帰国するまでに、私はハグをすることが大好きになりました。

小さいことかもしれないのですが、バンクーバーの人たちはバスの運転手さんに一言、”Thank you!”と大きな声で聞こえるように言って、後ろのドアから降りていきます。それに対して、”Have a nice day.”と言ってくれる運転手さんもいます。運転手さんと顔見知りの人は、運転しているにもかかわらず普通に運転手さんと会話をしていました。日本のバスだと、こんなことはまずあり得ないし、何も言わず静かに降りていくのが普通です。こういう何気ないコミュニケーションも、すごく気持ちがいいなと思いました。

しかし、ホームレスの多さにも驚きました。バンクーバーでは毎日見かけました。駅、道端、公園、バスターミナル。様々な所で、お年寄りだけでなく、見た目が学生のような子も普通にいます。みんなコーヒーの紙コップを持ちながら、お金を要求してきます。また、タバコについても日本とは違いました。飲食店や仕事場など関係なく、建物内では絶対に禁煙です。タバコが苦手な私にとって、いいことだなと思いました。その反面、中で吸えない分、外でしか喫煙できません。歩きたばこが非常に多く、道端は吸殻だらけ。日本以上です。このような社会問題も、国によっていろいろ違うんだなということを目の当りにしました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、教授との距離が近いことです。小さい大学だからこその利点だと思います。１番大きなクラスで、２００人程度だと聞きました。とにかく授業でわからないことがあれば、教授にメールしたり、授業後に聞きに行ったり。留学生をサポートしてくれるオフィスもあり、みなさんとても親切です。大学生活が始まったら、教授だけでなく大学スタッフなども、フルに活用してください。疑問をもったら、すぐに質問する。とても大切なことです。

悪かった点は、田舎すぎるということです。勉強に集中できるという点ではアドバンテージになるのですが、やはりストレスは溜まります。勉強から逃げたくなることが何回かありました。私のストレス発散法は食べること。でもダウンタウンには何もない。バスで＄２５かけて隣町まで行かないと、レストランもショッピングセンターもない。なかなか大変でした。あとは、日本のある大学と提携している語学研修プログラムのことです。年に２回、２０人ほどの学生が来るらしいのですが、その子たちとの待遇の違いに時々嫌気しました。その学生はとってもいい子たちです。ですが、自分が勉強で追い込まれているときは、正直何回もそう思ってしまいました。同じ日本人生徒なのになんでこんなに違うのか、と。単なる自分勝手な考えだったんですけどね。

②　日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは絶対です。語学学校や大学での課題だけでなく、メールを本当によく使います。同女の国際交流センターや教授とのやりとりに必須です。大学の授業では専門用語が飛び交っていたので、電子辞書にはとてもお世話になりました。

日本で買った市販薬とマスクも持っていきました。私はもともと風邪をあまりひかないし、ひいても気で治すという感じです。しかし今回ばかりは日本国外ということもあり、念には念をと、持っていきました。大学に移ってから、まさかの大活躍です。急な気温の変化のせいか、風邪をひいて喉が痛くなるし、鼻水は止まらないし、咳は止まらないし。この時は薬があってほんとに助かりました。カナダで日本の薬はまず買えませんからね。

クレジットカードやデビットカードは、支払いの際とても便利です。海外は大体そうだと

思うんですが、北米は＄１からでもカードを使います。向こうで銀行口座を作らなくても、ATM に行けばカードを使って現金をおろすこともできます。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

Reading と writing skill は伸びたかなと思います。この２つは大学でひたすらやらされたので…。Speaking と listening skill が伸びたかは、カナダにいたときは正直自分でもあまりわかりませんでした。でも帰国してから、ネイティブの先生に会いに行ってお話をしたときに、「留学前よりもかなり先生と会話ができてる！」とやっと実感しました。先生にもそう言ってもらいました。映画もだいたい字幕なしでわかるようになったと思います。やはり１年未満の留学だったのでペラペラとまではいきませんが、日本にいたら聞かないような会話表現をたくさん知りました。

性格の面でも、かなり変わったと思います。恥ずかしながら、留学するまで１人で飛行機に乗ったことがありませんでした。日本国内ですらです。もちろん英語で check in と手荷物検査。毎回不安でした。それがこの留学中では、カナダ国内を横断しながら旅行をし、最後にはアメリカにも行きました。度胸がついたといいますか、少し自分が強くなれたと思います。元から人と話すことは好きでしたが、留学前よりも積極的になったかなと感じます。

④　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

「留学したい！でも海外に長期滞在なんて自分にできるのかな。不安やなあ…。」

留学前、私はずっとこう思っていました。友達には「留学したい！」ばっかり言っているだけで、一歩がなかなか踏み出せなかったんです。でも！もし私と同じように思っている方がいるならば、こんな考え捨ててください！ほんとに少しでも留学したい！って思っているなら、挑戦してください！留学前に抱えていた大きな不安も、向こうに行けば本当になんとかなるものです！だから、今すぐ TOEFL を受けてください！私はなかなか決断できずギリギリになったけれど、なんとかスコアを取ることができました。

この８ヶ月間の交換留学は、２０年間生きてきた中で１番濃くて充実した時間です。いっぱい泣きました。いっぱい辛いことがありました。でもそれ以上に、いっぱい楽しいことがありました。たくさんの人に出会いました。日本にいるだけでは知ることができないことが、海外にはたくさんあります。いろんな考えや文化があり、視野がとても広がりました。

留学中は、不安との戦いです。私は、日本にいる友達や祖父母を含め家族みんなに何度も救われました。留学前の準備からなにまでの、全てにおいてです。みなさんは１人じゃありません。助けてくれる人は日本にも、留学先でも必ずいます。だから、迷っているなら絶対にチャレンジしてください！必ず、最高の、価値あるものになります。

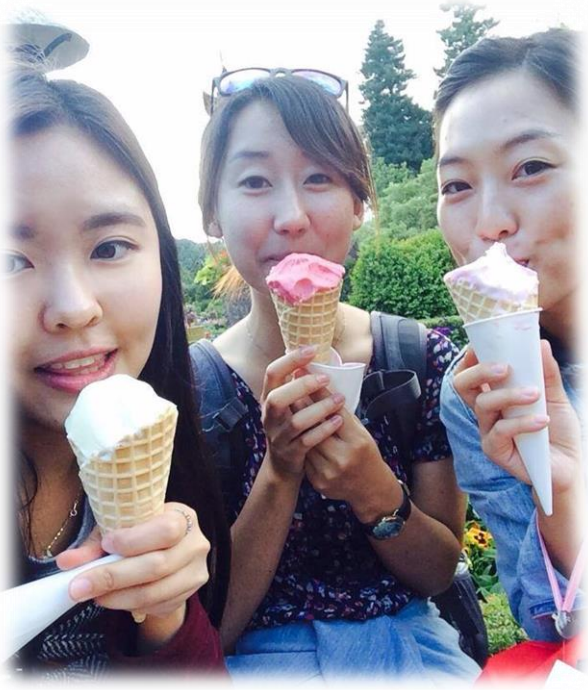
みなさんがこの交換留学に参加でき、素敵な経験ができますように！

Ⅳ．将来の目標

2014 年度（春ｽﾀｰﾄ・１ 年）
Mount Allison University

①　今後の進路、将来の目標・夢

就活中なので、まだはっきりとは決めていません。英語を活かせる仕事ができたらいいなと考えています。今は、エアライン関係に興味があります。せっかくいろんな国の友達ができたので、彼らとまた会えるように、英語の勉強は続けていきたいですね。



大親友の韓国人の子２人とビクトリアへ。ちょっとハプニングもありましたが、ずーっと笑いの絶えない旅行になりました！！！

ずっと夢だったロッキー山脈へのツアーに参加！
エメラルドグリーンの湖は本当にきれいでした。ツアーで出会った友達との shot です。

2014 年度（春ｽﾀｰﾄ・１ 年）
Mount Allison University

このクラスメイトと先生が、私の留学生活を１８０度変えてくれました。最高のクラスです！

2014 年度（春ｽﾀｰﾄ・１ 年）
Mount Allison University

Ｋ．Ｍ．　社会システム学科・３年次

Ⅰ．留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校での短期留学の経験や中途半端な英語をなんとかしたいという想い、また協定先大学に興味を惹かれる授業があったので、長期留学を目指すことにしました。カナダの Mount Allison University を選んだ理由は 3 つで、1 つめは家族とカナダを何度か旅行しカナダの広大な美しい自然や居心地良さを気に入っていたこと、2 つめは小さくてアットホームな雰囲気の大学であり興味がある環境学の授業が沢山あったこと、3 つめは Mount Allison に留学した先輩から体験談を聞き、ここだ！と思ったからです。

② 目指してから出願までの英語学習

入学当初から協定留学を考えていたので社会システム学科の CASE プログラムに入り週 4 でネイティブの先生のクラスを取っていました。しかし TOEFL の点数を上げるには本格的な対策が必要だと思い、生協の資格支援講座「TOEFL iBT 対策講座」を受講していました。講座には留学を目指している人たちが受講していたので、刺激を受けモチベーションを上げることができたと思います。iBT のテストは長丁場で形式に慣れるまで時間がかかったので計画的に 2～3 回受験することをおすすめします！私の場合は 3 回目でやっと申請できるスコアに達しました。iBT テストの前は図書館の閉館時間まで対策本をするなど勉強しましたが、普段はもっと英語を楽しんでいました。アドバイザーの先生（ネイティブ）と談笑したり、洋楽を聞いたり、好きなアーティストやモデルのコラム・記事・ブログを読んだり、子供向けのアニメ番組や面白い CM・TED の動画を見つけるなど、簡単なレベルの英語を見たり聞いたりしていました。

③ 決定から出発まで

【勉強】夏の TOEFL の試験が終わってから気が抜けたようにだらだら勉強していましたが、出発までの時間を有効に使うことで留学生活にプラスになると思い、資格支援講座の TOEIC を受講して英語を勉強する時間を作りました。他には特別なことはしませんでしたが、毎日洋楽きいたり、時間のある時には洋画をみたり、たまにカナダ人の友達とチャットしていました。

【VISA 申請】　業者に頼むという選択肢もありましたが、自分で挑戦しました。ビザの申請を認めてもらえるまで 1 ヶ月（個人差あり）はかかるので、何でも早め早めにすることをおすすめします！とくに親の協力が必要なもの（残高証明書の発行など）もあるので、早めにお願いしましょう！わたしは出発が 4 月だったので 1 月に申請しました。

【荷物の準備】

出発の 4,5 日前にやっと始めました。下着やヒートテックなどの肌着は買い足しましたが、ほとんどは家にあるいらない服をつめ、帰国時に捨てました！あとはお土産を買いました！持ち物のことでわからないことは、直接先輩に聞いたりもしました。出発前日には日

本の携帯を解約し、向こうではカナダで契約した携帯（電話とテキスト用）と日本から持参したタブレット iPadmini（LINE,FB など用）の 2 つを使っていました。

④ 現地到着後

到着後は現地サポート（Education prime）のスタッフさんが空港からホームステイ先まで送ってくださったので、トラブルなくたどり着けました。金曜日の夜に着き、土日は語学学校までの行き方を確認したり、ステイ先の周りを探検したりと、月曜からの学校生活に備えました。語学学校のオリエンテーションは最初の日（月曜）に行われ、そのあとレベルチェックテストを受けました。このテストでクラスが決まります。

【オリエンテーションの日の持ち物】

入学手続きに、①パスポート　②同女で加入した海外保険　③カナダの住所（ホストファミリー）が必要でした。

⑤ 語学研修期間

語学学校（Kaplan）はトロントまたはバンクーバーから選べます。私の選んだトロントの学校はダウンタウン、ビジネス街の中心にありました。ステイ先からはバスと地下鉄で 1 時間ちょっとかかりました。最初の約 2 ヶ月は Intensive English というグラマーやリスニングを鍛えるコースを受講しました。クラスメイトの構成はアラビア系 40%、南米 30%、ヨーロッパ 20%、アジア 10%という感じでとても international な雰囲気でしたが、私も含めてみんな独特のアクセントがあり聞き取りにくいことや、周りの生徒のように発言できない自分に悩みました。だんだん友達ができるにつれて学校が楽しくなりました。残りの 10 週間は、UFC（University Foundation Certification）という大学進学準備コースを受講しました。このクラスでは主に大学で必要とされる、速読や語彙、プレゼンテーションやエッセイ、長時間のリスニングを重点的に特訓しました。ペアを組み 90 分のレクチャーに挑戦したり、トロントにある 3 つの大学やカレッジのオープンキャンパスにいったりと貴重な体験もしました。内容の濃い授業や毎日出る課題にしんどさを感じていましたが、ここで得た力は大学での勉強に役に立ったと思います。さらに、みんなで励まし合いこのコースを乗り越えたクラスメイトとは、一生の友達と思える程の仲になりました。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境

大学の敷地はそれほど広くなく寮から教室は近く移動がとても楽です。9 月から肌寒くなり 11 月には雪も降りだしますが、寮や教室など建物の中はいつも適温に設定されています。キャンパス内にはレンガ造りの趣のある建物が並び、池には白鳥が優雅に泳ぎ、木々の葉は季節によって美しく色を変え…といった感じのとても素敵な所です。食事は毎食ミールホールで最初は気に入っていましたが、だんだん飽きてきて、和食シックになりました。トロントにいた頃はお寿司や韓国料理のお店が山ほどありましたが、サックビルには世界の sushi どころかアジア系レストランすらなく、和食の恋しさが増したと思います。

大学のあるサックビルはとても小さな町です。ここに来て 1 番驚いたことは、道を渡ろう

とすると必ず車が止まってくれることです。ドライバーは子供だけでなく、大学生、歩行者を優先してくれるところが嬉しかったです。あるとき郵便局から大きくて重たい荷物を運んでいると、おじいさんが荷台に荷物を積んで寮まで運んでくれました。みんなほんとに親切です。ダウンタウンまでは大学から徒歩 5 分の距離で、ショッピングモールはありませんがスーパーや薬局 100 均などがあり消耗品は揃えることができます。

◆履修科目

・【ANTH】-1011 A Intro to Anthropology

授業は教科書を中心に人類の進化・文化、民族のルーツ、社会構築など基礎的なことを幅広く学びました。規模は 200 人ぐらいで週 3 回のレクチャー形式ですが、毎回教授は生徒に意見を求めることが多くありました。教授は日本に住んでいたことがあり、日本のデータやビデオがパワポによく登場したのでその面では理解しやすかったです。授業の進度は非常に速く分厚い教科書（500 ページ）をひたすら読んで予習復習やテスト勉強しました。教授は早口で非常に聞き取り辛かったので予習復習がとくに必要でした。ラボは 20 人ほどの小さいクラスに分かれて外交官ゲームやディスカッション、授業の理解度チェックテストなどの内容でした。

☞評価　▫テスト 3 回(5 チャプター×3)　▫ファイナルエッセイ　▫ラボ 5 回

・【CANA】-2011 A An Intro to Canadian Culture

以前から Quebec や Native Canadian に興味を持っていたのでこの授業を選びました。この授業は 90 分のレクチャーとチュートリアル（ゼミ形式）が週に 1 回ずつあり、カナダの美術・音楽・ポリシーや地域ごとの特色ある文化・歴史などの視点から、カナダ文化の本質を探るとても興味深い授業でした。また今学期はカナダで活躍するカナダ人女性(8 人ほど)や授業で読んだ小説の筆者(2 人)が MTA に招かれ講演会が行われ、出席してレポートを 2 枚書きました。チュートリアルでは毎週 500words のエッセイを提出しますが、良い評価がもらえずにいたので途中から図書館のライティングサポートセンターに通っていました。授業は内容が深いため面白いと思うこともありましたが、予習の堅苦しい教科書のリーディングやチュートリアルの準備にとても時間がかかり 1 番ストレスを感じる授業でもありました。

☞評価　▫チュートリアル 50%　▫ミッドタームテスト 15%　▫ファイナルテスト 20%
▫レポート&まとめ 15%

・【GENV】-1201 A The Human Environment

これは最も受けたかった授業の 1 つで、実際とても楽しく興味深い授業でした。この授業は定員オーバーするほど人気で、wait list にいましたが、教授と交渉してなんとか授業を受けることができました。授業ではヒトと土地の結びつきや、今現在わたしたちが直面している環境問題について考えました。授業で取り上げられていたビデオや資料はいつも面白く、また何より教授の人柄とユーモアがこの授業を何倍も面白くしていたと思います。

☞評価▫　ミッドターム or ファイナル(高い得点とれた方から) 20%　▫ペーパー(8 回) 80%

⑦ クラブ課外活動ボランティア

International office 主催の Mentorship program という、同女の sister 制度に似た、留学生が大学に溶け込むサポートをしてくれる先輩（Mentor）を紹介してもらえる制度を利用しました。わたしの Mentor はカナダ人の生物学を専攻している 3 年生でした。また大学から 20 分程離れた町にある Animal Shelter（保健所のような施設）へ行き、犬や猫のお世話をするボランティアをしました。ペットが恋しく感じていたので動物と触れ合う良い機会でもありました。

⑧ 住まい

・語学研修期間

トロントではホームステイでした。ファミリーはイタリアからの移民でとても明るく親切で陽気な方達でした。私はファミリー宅の真横にあるまったく同じ造りの家に私を含め 8 人の留学生（スペイン・韓国・日本）と生活していました。洗濯は週に 1 回で火曜の夜に預け水曜の夜に返ってくるといった感じでした。下着や肌着、靴下は 7～8 日分あると便利です。朝昼ごはんはホストマザーが用意してくれるお弁当を、夜ご飯はファミリーの家で談笑しながら食べていました。夜ご飯はいつもとても楽しい時間で、みんなの 1 日の共有から始まりホストファーザーのジョークや恋バナで盛り上がり、時には真面目な話を何時間もしました。ごはんはおいしかったのですが、週 5,6 でパスタやこってりイタリアンを食べているとだんだん胃の消化の働きがにぶってきました。たまに友達とする外食が幸せでした。ハウスメイトとは（たとえ日本人同士でも）英語を使い、毎晩一緒に学校の課題をしたり、ビリヤードやバスケ食後のウォーキングに行ったり、週末には一緒に出かけていました。日本人のハウスメイトと Sushi party を企画して日本食をふるまったことやスペイン人が得意料理のパエリアをふるまってくれたことが印象に残る思い出です。ハウスメイト達とは一緒に生活していく中でそれぞれの持つ考えや文化を知りあうことができ、今までもっていた色々なイメージや先入観が変わりました。生活空間がホストファミリーと違ったので、家のルールに関するトラブルもほとんどなく良い関係を保てました。ただ掃除に関しては厳しかったので、公共のスペース（とくに玄関キッチンお風呂）はいつもきれいにするように心がけていました。また放課後に外食するときはその旨をできるだけ早く電話で伝えていました。

・正規科目履修期間

どこの寮に入るかは事前に 7 つの寮の中から第三希望まで出せましたが、大学の HP だけの情報では違いがわからず適当に選びました。まったく希望していなかった寮（Hunton）に入ることになりましたが、わたしに合っていた寮だったと思います。ルームメイトはカナダ人の女の子でした。大学や寮のことで分からないことを聞いたり、授業の相談に乗ってくれたり、一緒にカフェやバーに行きました。また彼女のおかげで、部屋に遊びに来る人たちとも仲良くなれて友達の輪が広がり、談笑したり日本語の宿題を手伝ったりと楽しかったです。寮のトイレや廊下だけでなく、キャンパス内や教室で会っても、みんな hey!

と声をかけてくれて嬉しかったので私もできるだけみんなの名前を覚えました。寮での 1 番の思い出は、寮対抗のバレーボールの試合に出たことです。勝ちにこだわるチームが多い中、私の寮の人達は勝ちより楽しむことを大事にしていたので、チームの人達との友情が深まり、私の人生で 1 番楽しいバレーボールになりました。試合ごとに「カラフルな足」「おたく」「クリスマス」などテーマを決めて毎回仮装して思いっきり楽しんでプレーしました。普段の勉強地獄から解放される楽しいひと時でもあり、勉強の原動力でした。

⑨ 長期休暇

語学学校が 8/1 に終わり大学が始まる 8/24 までの約 3 週間が夏休みでした。夏休み初日からトロントの同女メンバーと 5 泊 6 日のケベックモントリオールへ旅行しました。安くて便利な立地の宿や夜行バスを予約したり行きたいところ食べたいものを全部調べたりと入念に計画を立てて行きました。トロントに戻り今度は荷物を全部まとめてカナダ人の友達に会いにサスカトゥーン（カナダ中部）へ 10 日間行きました。滞在中は友達の家に泊めてもらい、トレッキング・釣り・キャンプ・競馬・農場散策など、今までの都会生活とは異なるカナダ中部の暮らしを体験できました。サスカトゥーンを離れて向かった先は、カナダの最東端の町ハリファックスです。そこで同女メンバーと合流し 6 泊 7 日かけてハリファックス→プリンスエドワード島（PEI）→モンクトンを旅行しました。旅行中はきれいな景色やおいしいものを沢山からだに取り入れ、様々なバックグランドをもつ人たちと出会い、とても新鮮で刺激的な時間でした。カナダ国内たくさんのところを回りましたが、全て素晴らしくまた行きたいです。最終目的地のモンクトンでは、マウントアリソンのスタッフさんにピックアップしてもらい大学へ向かいました。

⑩ 就職活動の取り組み

ホームステイ先で就活を終えたばかりの人、日本で会社を辞めてワーホリに来た人、就活セミナーの元主催者と一緒に生活していた時期があったので、少し話を聞かせてもらいましたが、SPI などの対策はしませんでした。

Ⅱ．留学の感想

① 楽しかったこと思い出に残ったこと

様々な国の人と出会い、インターナショナルな友達を沢山得たことが 1 番の収穫だったと思います。とくにトロントでは語学学校だけに限らず、様々な年齢のバックグランドをもつ留学生たちとの出会いがとても新鮮なものでした。勇気を出して地域のコミュニティーやトロント大学・ヨーク大学のイベントにいくことでさらに友達の輪が広がったと思います。MTA では「Hey, how are you?」などの挨拶をかわす人は沢山いましたが、親しい「友達」があまりできずにいました。しかしバレーボールや卓球トーナメントなど寮のイベントに積極的に参加することで寮生に顔や名前を覚えてもらい、馴染むことができ、とても楽しい思い出になりました。MTA 最後の日にバレーボールのチームのみんなからメッセージーカードをもらい、涙腺が崩壊するほど嬉しかったです。

② 辛かったこと苦労したこと

カナダ人の何倍も何十倍も勉強や課題に時間がかかり、カナダ人たちが遊んでいるときに必死に机(課題)にむかう留学生（日本人）がとても印象的でした。しかし勉強面よりも、ひとりでゆっくりできる時間がないことにストレスを感じていました。ルームメイトと合わなかったわけではありませんが、自然と気を遣ってしまうので一人で勝手に疲れたり、共有のお風呂や洗濯機が思い通りに使えなかったり、部屋に人が集まってきたり、でも常に周りに友達がいてくれたおかげでホームシックにはなりませんでした。しかし寮に住んでいるのはほとんど 1 年生（17－18 歳）なこともあり、騒音効果や精神年齢の低い遊びが時々呆れることもありました。　寮での生活を通し、友達の部屋を行き来し夜遅くまでわいわいできる良い所と、自分だけのペースで生活できない共同生活の大変な所の両方を知ることができ、寮は色々な面で私を成長させてくれたと思います。今思い返せば、当時辛かったこともカナダ・MTA でしかできない貴重な経験だったなと思います。

Ⅲ. 希望者へアドバイス

① 大学の良し悪し

「良」サックビルは遊びの誘惑がないので勉強に集中できます。MTA は小さい大学なこともありアットホームで生徒と教授との距離も近く、質問や相談にいくといつも親身に丁寧に対応してくださいました。わたしは途中で VISA の更新をしなければいけませんでしたが、更新の順序や必要なものを MTA のスタッフさんが一緒に確認してくださり、スムーズに進めることができました。教授や授業の質、サポート体制も優れている大学だと思いました。

「悪」MTA は日本の大学から団体グループを受け入れていて、生徒は良い子達でしたが、大学側の待遇がわたしたちと全く異なり同じ日本人なのにこんなにも違うのかと思ってしまいました。

② 持参物、役に立つもの

基本的にトロントやバンクーバーでは何でも調達できると思います。日系や韓国系のスーパーに行けば、抹茶のキットカット・どら焼き・そーめんなど和の象徴的なものを少し割高ですが入手できます。

【パソコン】あなたのパソコンは薄くて軽いですか？わたしは太くて重いパソコンに身軽な移動を妨げられ、肩も凝りいろいろ厄介な思いをさせられました。

【ガイドブック】カナダ国内を旅行するときにとても重宝しました。

【折り畳み傘】カナダの傘は頑丈だけど折りたたんでも大きくて値段も高かったです。

【風邪薬】いつも飲んでいる薬が手元にあるだけで心が安らぎます。

【文房具】韓国人の筆箱を覗くと 8 割は日本製というぐらい、日本の文房具は良品です！

【のど飴】空調のせいで喉がよく乾燥しました。キャラメルバター飴や鮮やかな色のグミなどの喉に良くなさそうなのが主流なので、のど飴は日本から持ち出しましょう。テスト前は青色のミンティアが勉強のお供でした。

あとは、電子辞書、生理用品、歯ブラシ、ヒートテック、洗濯ネット、トリートメント、ドライヤー、緑茶、などです。

留学の成果、留学前後で変わったこと

TOIEC などの点数はまだわかりませんが、今までより英語が耳に入ってくるようになり読む速度も速くなったと感じます。留学するまで一人暮らしをしたことがなかったので、9 ヶ月間のホームステイや寮生活を経て、自分の力で解決できることが増えなんとかなる精神を授かったように思います！

③ 後輩へのアドバイス

日本にいる間は、慣れない土地に長期間滞在する不安や言葉の壁を心配していましたが、行ってしまえば！現地での生活が始まれば！なんとかなるものです。勉強だけに集中できる素晴らしい環境と自由 in CANADA を手に入れることができるのは今だけです！留学先では今しかできないことにこだわり、勉強も息抜きも全力で楽しんできてください！

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標、夢

留学中に出会った人たち、お世話になったホストファミリーや一緒に過ごした仲間と疎遠にならないように連絡をとり続けたいと思います。またいつか会えた時に、たくさんお話できるように英語はこれからも伸ばして行きたいと思います。

私が住んでいた寮のバレーボールチームです。見事勝つことができてみんなでガッツポーズ！この時は「カラフルな足」とテーマを決めて変装して試合に挑みました。

2014 年度（春ｽﾀｰﾄ・１ 年）
Mount Allison University

左：エミリー（メンター）真中：エイドリアナ（メンターの友人）これはプリンスエドワード島日帰りツアーに参加した時の写真です。その他にもファーマーズマーケットやカフェに行ったり、エミリーの家に招いてもらい日本食を作ったり、たくさん思い出ができました！

2014 年度（春ｽﾀｰﾄ・１ 年）
Mount Allison University

M. N. 英語英文学科・４年次

Ｉ．留学レポート

① 協定留学を目指した理由

海外留学は大学に入学する前からずっとやってみたいと思っていました。きっかけは留学生との交流などを通じてです。留学生の限られた期間の中で精一杯留学生活を楽しもうとしている様子を見て、自分も留学をして海外で暮らし、日本とは違う環境でいろんなことを経験したいと思うようになりました。自分のキャリアを考える上では、英語教師を目指しているため、海外留学の経験は語学習得や海外文化を学ぶ上でとても有益であると思いました。本格的に４年次での留学を決めたのは２年次の秋ごろです。３年次で留学するか迷ったのですが、サークルで今しかできないことがあったためそちらを優先し４年次での留学を決めました。また、教職課程を修了するためにはどちらの年に行ったとしても１年間科目等履修生として大学に通うことになるので、どちらの年次に行ったとしても私には変わりなかったためです。マウントアリソン大学に決めたのは、カナダの共学大学に行きたかったため、様々な分野のコースが取れるリベラルアーツ系大学であるため、あとは自分の TOEFL のスコアに合う大学だったためです。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

特別使用したテキストはありません。大学の AES の科目を積極的に取り、英語を使う機会を持つようにしていました。フィリピンでのボランティアキャンプに参加したことも英語をたくさん使用するいい機会になりました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後、ビザ申請手続きに手間取りました。手数料を払って仲介を頼むよりは、語学の勉強にもなるし自分でやろうと思いましたが最初は何もわからず、また時期が迫っていたのにもかかわらず書類がなかなか揃わず焦りました。誰かに聞くよりも自分でネットの情報を頼りにやる方がいいことがわかりました。あとは実家でゆっくりすること、友人に会うことなど、長期の海外滞在の前なのでやっておきたいことを、何より健康であることを大切にやっていました。語学の勉強は、洋画を見たり洋書を読んだりする程度でした。

④ 現地到着後

ビザは、滞在期間全てをカバーできる期間ではないものの無事におり、エージェンシーの手配によって車でスムーズに空港からホームステイ先まで移動しました。エージェンシーのオフィスで行われたオリエンテーションでは携帯電話契約や銀行口座開設の方法など有益な情報が手に入りました。考えた結果最低限通話とメールができる低機能のプリペイド携帯を購入しました。メトロで地下にもぐるとすぐに電波がなくなるので使い勝手は悪かったですが何より安かったです。割安でスマホが使えるレンタル携帯というものもありましたが万が一失くしたときに面倒らしく私の選択肢には入りませんでした。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

◆授業内容、課題、試験

トロントで ESL の学校に約４ヶ月通いました。最初は一般のクラスで１ヶ月勉強し、その後 UFC コースというアカデミックな英語に慣れるための大学準備クラスで１０週間勉強しました。Kaplan PLI はよい先生が多く、生徒目線で教えてくれる学校でした。教室の設備面ではスマートボードが新設され、プレゼンテーション時やネットを閲覧したりする際にスピーディな授業が展開されていました。一般の受講クラスはジェネラルなクラスと選択クラスとがとれました。選択クラスは映画を見るクラスをとりました。他には、TOEFL 対策クラスなどもありました。一般クラスでの課題は教科書の問題を解いてくることが基本でした。テストは習った文法事項を踏まえたミニエッセイを書くことでした。UFC コースでは課題が増え、プレゼンテーションも増え大変でしたが、モチベーションの高いクラスメイトとともに学ぶことはとても楽しかったです。トピックはさまざまで、ワクチン接種の問題やスロウフードムーブメントなど社会問題を反映していて興味深かったです。テストは習ったことを短い文章で答えるものやリーディングなどがありました。授業以外にもスタディグループやチャットグループなどがあったようですが特に参加しませんでした。カナダデーなどのイベントのある日が近づくと学校内でもそれに関するイベントを行ったりしていました。アクティビティを申し込める ISX という会社のデスクが常設で、ナイアガラの滝へ行くバスツアーに申し込みました。他にはニューヨークトリップなどがありました。トロントは様々なアクティビティを楽しめる場所がたくさんあるので放課後や休日も思う存分楽しむことができました。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

マウントアリソン大学は語学研修時代と打って変わって周りに何もないのどかな大学でした。近くに遊ぶところがないのは退屈なように思いましたが、履修が始まると遊びまわる余裕はあまりなく、課題と予習に缶詰状態で、息抜きは友達とご飯を食べてしゃべる、そして寝るというシンプルな生活が続けられてよかったと思います。もしこんなシンプルな環境ではなかったらここまで勉強に集中して過ごせてなかったのではと思います。留学生に対してのイベントやサポートも豊富でした。車で２時間くらいのところに「赤毛のアン」の舞台プリンス・エドワード島や、干満の差が著しいことで知られる浜、ホープウェルロックなどに大学からフィールドトリップとして行きました。カナダ東海岸の自然を満喫し、様々な人と仲良くなる機会としていいイベントでした。

◆履修科目

履修科目は、自分の専門である英文以外の分野もとりました。社会学、カナダ学に興味があったのでそれらの中から取れるレベルを選びました。興味があることと受講しやすいレベルということから聖書学もとりました。

・Introduction to Canadian Culture

2000 番台のクラスでした。チュートリアルといって、少人数でディスカッションをするクラスもあったのでその準備のためにモチベーション高く受講できました。多文化主義ガポリシーのカナダ内の複雑な文化事情を読み解いていきました。コースリーディングを読んで、ミニエッセイを毎週提出でした。チュートリアルの教授は毎回厳しくエッセイの問題点にチェックを入れてくれたので、エッセイの構成力に自信がつきました。

・Introduction to American Literature

2000 番台のクラスでした。アメリカの文学を広く学びました。毎週読んでいく量が半端ではなかったので、ネットでサマリーを参照しながらなんとか授業開始時のミニレスポンスを書いていました。ネットの掲示板でディスカッションに貢献することも課題のひとつでしたが、これも大変でした。授業は高度でしたが、短期間で集中して様々な作品に出会うことができました。中間試験の点がよくなかったので特別に課題を出してもらったりと、教授にはいろいろ助けてもらいました。

・Introduction to Sociology

1000 番台の科目ですが、教科書一冊を読んで書くレポートが最初の 1 ヶ月で出されたり、最後のレポートは 3000 ワードあったりと非常に大変でした。授業はレクチャーの日とワークブックをする日に分かれていて、社会学の考え方の基礎を、カナダの貧困や社会問題をテーマに学びました。ワークブックは近くの人と話し合いながら考えることもありました。教授の授業を進めるペースが速く、生徒のレスポンスも速いので刺激的でした。

・Introduction to the Bible I: Hebrew

旧約聖書について学ぶ 2000 番台のクラスでした。合計 4 回のペーパー提出がありました。語彙が難しかったですが聖書は親しみがあるのでついていけました。逆に親しみがなかったら難しい内容でした。基本はレクチャーでしたがたまにグループになって話し合うときもありました。期末試験はいろんな長さの作文が出題され 3 時間の長丁場で大変でした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

IVCF というキリスト教学生グループに出入りしていました。忙しくてなかなか参加できませんでしたが、ホームパーティなどいろいろなイベントを企画していて楽しいサークルでした。週に一回の聖書研究グループで知り合った人とはとても深い交流をしました。他には国際交流センターの主催する Mentorship program に入ってメンターと一緒に遊んだり前述のプリンス・エドワード島トリップに参加したりしました。

⑧ 現地での住まい

語学研修期間はエージェンシーの紹介によるホームステイでした。ダウンタウンからそう遠くないところで、ダウンタウンにある語学学校までバスとメトロでおよそ 40 分くらいでした。ホストファーザーとホストマザーともに料理が好きで、あまり聞きなれないモロッコ風料理など、とてもおいしい各国の料理を用意してもらえました。暇な時間があると 2 人いる子どもとバックヤードで遊びました。とても自由にさせてもらえて恵まれた環境でした。日本人のルームメイトが常に 1 人滞在していました。ひとつ不満だったのはいつも

味が同じのサンドウィッチです。最低限の昼食を用意してくれるのはいいですがさすがに飽きました。夕食はいいとして朝食と昼食に関して全く無頓着なのは欧米人の特徴かもしれません。朝食はバナナとシリアルをセルフで、コーヒーと紅茶もセルフでいつも飲めるようにされていました。

大学在学中は寮生活でした。シングルルームを選びましたがかなわず、カナディアンのルームメイトとのダブルルームでした。1 人で自由過ぎる生活でだれてしまうよりも、誰かと同じ空間で生活することで適度に緊張を持って生活できたので、結果的にルームメイトがいてよかったと思いました。寮は小規模の寮で、週末になると騒がしくなるパーティ寮でした。同じ寮の留学生の中には仲のいい人もいましたがカナディアンたちと仲良くなることが難しかったです。彼らよりもずっと勉強に励まないといけないのでそれを理由に寮で過ごす時間をあまり取りませんでしたが、もうちょっと積極的に友達をつくればよかったなと思うことはあります。

⑨ 長期休暇の過ごし方

語学学校卒業後から大学が始まるまで約 3 週間の夏休みがあったので、語学学校を卒業するまでに友達と旅行計画を練っていろんなところへ旅に出ました。荷物の置き場の点や安全面において拠点があった方が安心なので、旅行で空けることが多かったですがホームステイ先はチェックアウトせずに引き続き契約しました。旅したところはカナダではケベック州、大学に近い都市ハリファックス、プリンス・エドワード島です。ニューヨークにはトロントから長距離バスで行きました。メトロが発達している都会は旅しやすいですがそうでない小さな都会はバスやタクシー利用がなかなか大変でした。バスを利用する際には当たり前ですが本数の確認や、行き先を運転手に確認することが必須でした。プリンス・エドワード島ではほぼバスがないのでお抱えタクシー運転手のような人がついてくれ、いつもその人を呼んで移動していました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

教職志望なので就職活動に関して取り組んだことはありません。始めから留学に集中しようと思っていたので教職関係に割く時間も作りませんでした。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ひとつ選ぶのはとても困難ですが文化も国籍も様々な人々との出会いが一番印象に残っています。トロントで通っていた教会に知り合った人たちとよく遊びました。お宅にお邪魔して多国籍なメンバーでサッカー観戦をしたり、スポーツをしたりしました。日本にいたら日本チームを応援する人しかいないのにそのときはもう一方のチームを応援する人がいて新鮮でした。他にはフィリピン人コミュニティーに出入りしたりリトリートキャンプに参加したりしていました。そうして知り合った人々とは今も交流があります。出会いを求めて自分からいろんな門を叩いてみるのは重要だと思いました。

②　留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

一番辛かったのはやはり勉学です。カナダの大学は生徒にひたすら読ませること、書かせることがセオリーなのですが、あまりにも授業前に読んでくる量と課題の量が多いので最初はシラバスを見て本当にやっていけるのか呆然としていました。書くことは文法や構成がネックだったので単位に関わってくるエッセイの場合はライティングリソースセンターに必ず一度は見てもらいに行きました。勉強はいつも図書館か学生センターに居座って遅くまでやっていました。人間関係でも苦労することがありました。勉強が大変だったのであまり深入りせずに適当にやっておけばよかったです。余裕の無いときは優先順位を考えておくことが必要だと思いました。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

目立ったものを紹介すると、店員とはちょっとしたことでもコミュニケーションをとることが普通であることです。労働者と消費者の距離が近くて、リラックスして働いているところが日本と違っていいと思いました。大学生の遊び方や、性に対しての価値観の違いは知ってましたがやっぱり驚きます。欧米人全員がそうではありませんが遊び方がムチャクチャな人がいるので気をつけた方がいいです。サービスを提供されたあとに不満がなければチップを払うのは常識ですが、最初は慣れないので嫌いでした。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、教師と生徒、生徒と生徒の距離が近いことと、クラス規模が小さいことです。教授はいつもアクセシブルでした。エッセイを期日内に書き終わらなかったときはエクステンションに応じてくれたりしました。人数が少ないクラスが多かったので隣の子に聞いたりすることもしやすかったです。もうひとつ良かった点として、カナダの著名人が集まる会議が大学で開かれ、それが私の履修した Canadian Culture と連動していて、とてもよい学びになったことです。来年はどうなるのか分かりませんが、読んだ作品の著者が来校してスピーチをしていてとても刺激的でした。悪かった点は、小さい大学なので選べる科目のバラエティが少なかったことくらいだと思います。

②　日本から持っていって、特に役に立ったもの

ノートパソコンは持参しました。大学のときはよく持ち運んで勉強していました。日本食はたくさん持参したものの正直あんまり食べませんでした。「郷に入ったら郷に従え」は正しいです。歯磨き粉は変な味のもの、ハブラシは変な形状のものしかないので買っていった方がいいでしょう。紙製品は高いです。しかしだいたいのものは現地で調達できるので心配要りません。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力に関してはもちろん自信がつきました。スピーチやレクチャーはだいたい正確に聞き取っていると思うし、思っていることはだいたい正確に伝えられている感覚はあります。

しかしまだまだぺらぺらレベルには程遠いです。英語ネイティブと 1 対 1 ならいいのですが多人数になるとやはりまだ難しさを感じます。変な度胸がついたことや図太くなったことも成長のひとつだと思います。何か利益を得るため、もしくは不利益を被らないために、どんなときでも人に臆せず尋ねられるようになりました。日本社会を客観的に見られるようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

いろいろと書きましたがこれはあくまで“私”の留学体験記です。参考になるところがあれば嬉しいですが、結局楽しみや苦しみが何であるか、その程度は人それぞれです。留学はお金と語学力があれば誰でもすることができますが、そこでどんな交友関係を築き、どう留学生活を実りあるものにしていくかも人それぞれ、自分次第です。貴重な時間はすぐ過ぎていってしまいますので、そのときを最大限に楽しむために、留学で実現したいことが何であるのかはっきり目的意識を持って飛び立ってください。

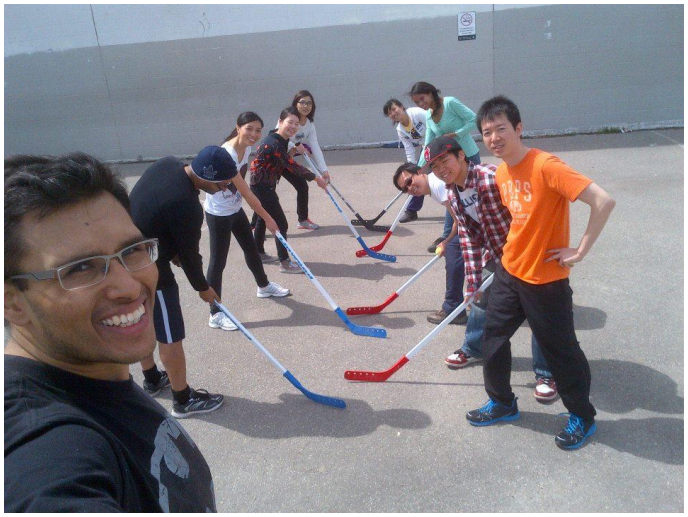
Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

もう 1 年大学に科目等履修生として在学し教職課程を修了します。現在は中学校の英語教員になるために準備を始めています。留学で学んだこと、体験したことを生かせるようにしたいです。

Ⅴ．写真

トロントの教会友達とロードホッケーをやったときです。多国籍なメンバーでわいわい集まってスポーツをするのは楽しかったです。



2014 年度（春ｽﾀｰﾄ・１ 年）
Mount Allison University

大学で参加していた週に１回の聖書研究グループの集まりです。関学の MASSIE の人たちもたくさん参加していました。リラックスしたムードでしゃべれる場でした。

2014 年度（春ｽﾀｰﾄ・１ 年）
Mount Allison University

M. E. 英語英文学科・２年次

Ｉ．留学レポート

①　協定留学を目指した理由

私は中学生の時から英語に興味があって、高校に入ったときには薄らですが留学に行きたいという希望がありました。高校 3 年になって受験生として勉強していたとき、担任の先生に大学で留学したいと思っているかどうかの質問を受けました。私は迷わず行きたいという選択をしました。その先生が私の尊敬している英語の先生でもあり、絶対に留学するという意識に変わりました。また、その時のネイティブの先生がカナダ出身であったこともあり、カナダという国に強い憧れを感じていました。同女に入ってから留学制度を調べているうちに、ただ英語能力をのばすだけでなく、もっと色んな国の人と出会い、知り、なにより留学中に自分が将来したいことを発見したいという目標ができました。勉強面からはカナダの文化は同女ではあんまり扱われていないのでカナダで直接勉強したいと思っていました。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

私はどうしても大学 2 年生から留学に行きたかったので、学校で行われる TOEFL ITP に向けてとにかく頑張って勉強しました。iBT の場合だと一回に 2 万円もかかってしまうので最初に ITP で点数をとり、iBT を受けるというのが私の考えでした。ITP を受ける際に勉強で使っていた教材はアルクからの「はじめての TOEFL ITP　文法」と同じ種類のリスニングでした。数をこなせばどういう形式か分かるので文法を中心に授業が終わってから家や図書館で勉強しました。それも同じ問題集を何度も繰り返し勉強しました。ITP の結果が出てから iBT の勉強を始めようとしましたがまず問題形式を理解するのが難しかったので、友達の誘いもあって TOEFL CAMP に参加することにしました。そこでやっとどんな問題があるのか、どのパートが自分にとって得意そして苦手なのかを知りました。iBT を受けるときには Barron's の教材を使いました。

③　留学決定から出発までの準備期間

勉強面に関してはまず初めに iTunes に入っている曲をすべて洋楽にしました。そして学校の授業を大切にするようにしました。スピーキングに関して他の分野よりも勉強する機会がつくれなかったので後々後悔しました。ビザは機関を通して作成したためすぐにできました。でも私は自分のためにも自分で申請することをお勧めします。

④　現地到着後

空港からホームステイ先まではエージェントで働いておられる方の車で移動しました。その時、私は飛行機酔いがすごくてどのぐらい時間がかかったのか覚えていません。オリエンテーションはエージェントの方々が優しくトロントについて教えてくださったのでスムーズに終わり、楽しく過ごせそうだと感じることが出来ました。

⑤　語学研修期間

私が通ったのは Kaplan という語学学校で、英語が好きな人が集まっていました。日本人もいましたが、お互い日本語を使わず英語で会話していました。一階にカフェがあったのでストレスがたまってすっきりしたいときにはそこへ行き、コーヒーを飲んで発散していました。先生も熱心に教えてくださり、わからないことがあったらすぐに質問できました。最初のコースの授業内容は文法が多かったので日本人の私たちにとっては簡単だと思います。UFC に入ってからは課題も手におえないぐらいでて、授業も私にとっては挑戦的で難しかったです。特に、授業１コマを使ってのレクチャーのリスニングは本当に苦手でした。私は結構長い間できなかったのですが、そこでたくさん発言することが大切だと思います。この学校は英語を学ぶ場所としてすごくいい環境だと思います。

⑥　正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学の施設は整っていて、特に図書館は私が勉強する上でとても大切な場所になりました。自主勉強ができる場所だけでなく、Writing Resource Center があってエッセイなどを見てくれる場所もありました。時間制なのですが第二言語として英語を使っている生徒たちのために設けてある時間もありました。

◆履修科目

English、History そして Canadian Study でした。履修決定まではカナダの大学のインターナショナルセンターの人と相談しながらどの科目が自分にあっているのかを考えました。途中で３科目にするか２科目にしぼるか考えたときもありましたがこれ以上妥協したくない気持ちがあったので３科目にしました。結果的にすべて履修してよかったと思えたので３科目にしてよかったです。

・Introduction to Principles of Literary Analysis

この科目は主に英文の解釈学を学びました。リーディングする量が圧倒的に多く、３科目の中で一番ハードでした。エッセイの課題が全部で３つあり、最後テストもエッセイ形式です。

・The Expansion of Europe Abroad

ヨーロッパ中世の歴史を学びました。エッセイ課題では自分で何個かの項目から選んで本を読んでエッセイを書くというものでした。ファイナルテストは English と同様にエッセイ形式です。

・An Introduction to Canadian Culture

カナディアンとカナダの文化を学ぶのはすごく貴重な経験になりました。チュートリアルもあり、プレゼンテーションをしました。発言することが求められるので挑戦的でした。この科目のファイナルテストもエッセイでした。エッセイ形式は難しいですが確実に Writing Skill は上がります。あきらめずに挑戦してみてください。

マウントアリソン大学はすべての教授が優しく、わからないところがあったとしても丁寧に教えてくださいます。授業内容が分からなかったら自分のためにも迷わず質問しましょ

う。

⑦　クラブ、課題活動、ボランティア活動

インターナショナルセンターが主催する Mentorship という Society に所属しました。そこでは自分と合ったメンター（先輩）が決められ、その人と一緒にイベントに参加したり、勉強をしたりします。大学に慣れるためにはすごく良い Society です。私はメンターと一緒にアメリカのカターダンという山に登山しにいきました。他にもハリーポッターを見たり、ジムにいったり楽しいことをたくさんしました。

⑧　現地での住まい

トロントではホームステイで過ごすのが少し窮屈に感じるときがありました。例えば夕食の時間を 2 時までに伝えなければいけない、お風呂は 9 時までなどありました。しかしそのおかげで健康的に過ごせたように感じます。ホストマザーは優しく、いろんな話をしました。特に最近のニュースや学校での出来事を共有し、楽しい思い出はたくさんあります。食事内容はホームステイ先によってバラバラです。私の一日の食生活は、朝食としてトーストを焼き、昼は前の日に自分が用意したサンドウィッチを持っていき（ジュース付)、夜はホストマザーが用意してくれました。ホストマザーがインド出身ということもあり主にインド料理でした。最初はその食事のスパイスの臭いが苦手でしたが、やはり慣れるものでいつの間にか好きになっていました。食事の量が比較的少なめでしたがフルーツ（リンゴ、プラム、バナナなど）は食べ放題だったので健康的に過ごせました。体重も増えるどころか減っていきました。朝のトーストや昼のサンドウィッチはホストマザーが前もって用意してくれた材料をつかいました。ホームステイ先から学校までは Eglinton から Union station の乗り換えなしでの通学でした。UFC が始まるまでは昼からの授業だったのでゆっくり朝を楽しむことができました。始まってからは朝 6:30 に起きて 7:30 にステイ先を出るという通学でした。

大学に入ってから寮での生活でした。私の寮は Hunton という小さい寮で家族のような寮であるというのが私の寮のコンセプトでした。決定方法は事前に寮の希望を大学に送ってその後決定のメールが送信されるというものでした。正直、私の第一希望は Hunton ではなく別の寮でしたが私はこの寮の一員でよかったと実感しています。食事は三食すべて学食を利用していました。バイキング形式なので取りすぎには注意したほうがいいです。メニューもハンバーガーやポテトなどのジャンクフードが多かったので体重の管理もしながら食事を楽しむことが大切です。その一方、朝を除く食事にはご飯が用意してあり、時々ですがお好み焼きもでました。通学時間は 10 分以内です。寮が学校内にあり多少寝坊しても授業に間に合いました。

⑨　長期休暇の過ごし方

私の場合、大学が始まるまで約 1 か月の休みがあり、友達とモントリオール、ケベックそしてニューヨークへ旅行しました。モントリオールとケベックはカナダへ留学するなら絶対に訪れるべきだと思います。街並みの風景はヨーロッパ風でどこもかしこも素敵でした。

ごはんも行くレストラン全ておいしくて感動しました。特にケベックで訪れたケベック料理のレストランは本当にすばらしかったです。ニューヨークでは 4 箇所の美術館に行き芸術を堪能しました。どちらも行ったことのない場所だったので警戒心は強めに過ごしました。大学に入ってからの 3 連休では一日目は勉強に費やし、二日目と三日目を使ってメンターと一緒にアメリカの Mt. Katahdin に登山しに行きました。日本人の学生は私一人だけだったので不安もありましたが、登頂したときの感動は今でも覚えていて本当にいい経験になりました。

⑩　留学期間中の就活活動の取り組み

私は 2 年での留学だったので留学中に就職活動についてはしていませんでした。その代り、自分が興味を持ったことはすぐ調べたり、行動してみたりして将来どんなことがしたいのかということをうっすらでも自分の中に描くようにしました。ゼミの選択が 11 月ぐらいにあったのでその決定が明確に自分の勉強したいことであるように選択しました。

Ⅱ．　留学の感想

①　留学中に楽しかったこと、最も思い出に残っていること

大学に入ってから、授業ではないのですが演劇の衣装づくりのボランティアをしたことが一番心に残っています。もともと演劇に興味があったのですが授業では Drama study を取っていませんでした。でも、ある日、English の先生に授業の質問をしに行ったとき、先生に何に興味があるのかと聞かれました。私はすぐに演劇だとこたえました。そうすると教授が、仲の良い演劇の先生が衣装づくりのボランティアを募集しているからやってみいか、と誘っていただきました。それからその先生にメールして定期的に手伝いにいきました。衣装づくりというのは初めで、ミシンを使うのも小学校の授業以来でした。緊張もありましたが、せっかく与えられた機会を逃したくなかったので宿題も早く終らせて忙しいなりにボランティアの時間をつくりました。本番前日まで衣装をつくり、結果、役者のベスト 3 着とドレスの飾りつけを完成させることができました。本番当日には実際に私のつくった衣装を役者の人たちが着ているのを見て感動しました。また、その演劇のしおりにも Crew として自分の名前が載ったことを自分ながら誇りに思いました。演劇を一緒にみた観客の人たちからも素晴らしい衣装だと言っていただき本当にやりがいがありました。その感動から日本に帰ったら演劇のことをもっと学びたいと思い、ゼミは演劇関係を選択しました。恥ずかしがらず何でも行動、挑戦すれば自分にとって素晴らしいこととして返ってくるのだと思いました。この時、衣装づくりを紹介してくれた先生も衣装づくりを教えてくれた先生も優しくて最終的にすごく親しくなりました。出会いは大切だと感じました。

②　留学中でつらかったこと、最も苦しかったこと

最もしんどかったことは大学に入ったころのことです。入り始めは語学学校との違いにあまりにもショックを受けました。授業が始まってからの一週間はずっと泣きました。まず、ご飯を誰と食べればいいのかという不安、授業についていけるのかという不安、そして友

達ができるのかという不安が自分の中にありました。留学生はみんなそれぞれ英語のレベルが違うので相談しても結局どうすればいいのかわからないということが多々ありました。また、ご飯のときは一応、寮それぞれにその寮のエリアが決まって　いて、カナディアンの寮生たちは毎日そこでみんなと食事していました。私も何回か勇気を振り絞ってそのエリアに入ったことはあるのですが、案の定、ネイティブの英語が早すぎてついけてないことや自分が思っていることをうまく伝えられないことのほうが多くて苦しみました。そのせいで、その空間には自分の存在がないかのようにも感じてしまいました。なので、ご飯に関しては日本から来ている同じような留学生や、他の国から留学しに来ていた人と食べる機会が断然多かったです。現地の人と話すのは大切なことだと思うけど、自分がちゃんと落ち着ける居場所も大切にしてほしいです。

②　文化・習慣の違いで驚いたこと

大学に入ってから、パーティーが毎週のようにありました。金曜の夜や土曜の夜はみんなドレスに着替えてパーティーに出かけます。日本ではあまりパーティーがないので驚きました。たまに私の部屋にパーティー帰りの友達が訪れることがありました。酔っていて意味が分からない英語をずっとしゃべっていて面白かったです。でもパーティーで友達の輪が広がるのは確かだと感じました。実際に喋ったことのない人でもノリの良い雰囲気で喋れるようになったりしました。そして、ファッションに関しても驚いたことがあります。カナディアンは皮膚が丈夫なのか、私たち日本人が凍えている気温でも薄着の人が多かったです。カナダは 11 月に入るとすごく寒い気温になります。厚めのコートと滑りにくいブーツは必需品です。

Ⅲ.　留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は大学が勉強のサポートや留学生に対するサポートがしっかり整っていたことです。私は大学に行くまで正式なレポートの書き方も授業の受け方も知りませんでした。でもレポートの書き方は Writing Resource Center が、そして授業の受け方はそれぞれの教授が優しく丁寧に教えてくれました。授業だけでなくカナダの生活も疑問に思ったことはすぐに聞く、ということを心掛けてほしいです。

悪かった点は食堂のメニューが豊富ではなかったことです。昼と夜にはお米が出ますが、朝にはお米はないです。多くの日本人が朝にはご飯を食べるのが習慣なのでその点については辛いかもしれません。また、行く時間が遅すぎたらお米はほとんどなくなっています。気を付けてください。

②　日本から持っていって、特に役立ったもの

パソコンは絶対にいります！必ず持って行ってください！授業でも使える小さいパソコンをお勧めします。小さいパソコンだとレポートを書くときに図書館などの勉強場所に持っていくのにも便利です。日本食は自分で食べる用に持っていくのもいいですが、カレーや

シチューなど簡単に作れるものがあれば現地の人にも日本食を体験してもらえるのでいいかもれません。私は持って行ってなかったのですが、友達がカレーを持ってきていてみんなに振舞っていたのが素敵だと思いました。持っていくものの中で特に化粧品は日本製をお勧めします。カナダには日本と同じメーカーが置いてあることもありますが値段が高かったり、種類が少なかったりします。自分自身、肌が弱い分外国のものを使うことに不安があったので化粧水と保湿は無印良品のメーカーを使い続けました。カナダは乾燥しているので肌は保湿をしっかりすることをお勧めします。風呂に入ったらすぐに保湿！心掛けてください。あとニベアの保湿クリームもお勧めです。安くて内容量が多めなので便利です。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は全体的に上達しました！特にリスニングに関しては来る前と後では全然違います。難しくない洋画なら分かるぐらいになりました。授業に頑張ってついていこうと思って毎回集中して聞く、毎日の生活でリスニングは自然と身に付きます。リーディングやライティングは授業によってかなり上達します。私の取っていた授業は読み物もレポート提出も多かったので辛かったですが結果、リーディングもライティングも上達したのであきらめないで良かったと感じています。それも、できるだけいい点数を取りたかったのでレポート提出の時は Writing Resource Center に行きまくりました。スピーキングは話す自信がつきました。正直、英語がペラペラに上達したとは言えません。でも、自分の持っている表現で伝えようという意思があれば伝わるのだと分かり、自信を持って英語を話すことができるようになりました。それだけで英語に対する意識が変わります。留学の成果として、興味があることは挑戦しようという意識も強くなりました。留学は当然ながら期間が決まっています。自分が留学前に必ず達成しようと思っていたこと、留学中にできた目標を達成できるように行動してみてください。その行動が例え失敗に終わったとしてもそれは自分の経験に繋がります。達成や成功には失敗がつきものです。留学ではいっぱい失敗することがあると思います。私もたくさん失敗していっぱい泣きました。でもこうして自分の経験としてみんなに伝えられることを誇りに思います。留学前と比べて様々なことに視野を広げられるようにもなりました。時間の大切さも知りました。留学を通してより客観的に日本をみることが出来たおかげで帰国後、達成したい目標に対する思いも強くなりました。その目標は帰国後すぐに挑戦しました。この行動力は留学で培われたものだと思っています。留学したときには後悔しないように、なんでもとりあえず挑戦してみてください。

④これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は留学先についてから自分がどう行動していくかが留学生活を充実させるかどうかだと思います。カナダで同じ日本人同士で英語を使い合えるような関係であれるかどうか、色んな行事に参加できるかどうか、恥ずかしがらず発言できるかどうか、考えればたくさんのことがあります。留学に不安は絶対ついてきます。その時は自分一人で解決しようとせず、誰かに伝えてみてください。私でもよかったら聞きます！そして何より楽しむこと

を忘れないでください。楽しんで恥ずかしがらず興味があることを挑戦すること。「もぉ無理！」て、なったときは一日勉強しないとか自分なりにリラックスする日もつくること。留学は絶対いい経験になります。楽しんでください！

Ⅳ.　将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

4 月から 3 回生になるのでゼミが始まります。私は演劇に興味があるので演劇に関するゼミを登録します。留学でも演劇づくりを経験したことで演劇に対する興味がますます強くなりました。3 回生になってからもっと演劇のことについて知りたいです。例えば‘どういう構成で演劇は作られているのか’や‘どういう演劇が人々を魅了してきたか’などです。将来の夢はまだはっきりしていませんが、誰かを感動させたり輝かせたりすることがしたいです。自分が誰かの元気の源、そして何かの原点となるような存在になりたいです。

トロントでのホームステイで一緒だった Adjza(アジャ)との写真。Distillery District のジェラートは本当に最高の味！Adjza とは二人で色んな場所に出掛けました。約一ヶ月のステイでしたがカナダで Best roommate となり、今でも連絡を取っています。

2014 年度（春ｽﾀｰﾄ・1 年）
Mount Allison University

大学主催の登山での写真です。メンターの Katie が誘ってくれました。このとき日本人学生は私一人でした。初心者のため違う山を進められましたが、あきらめずみんなと一緒の山、Mt. Katahdin を登りました。達成できて本当にいい経験になりました。Katie とみんなにすごく感謝しています。